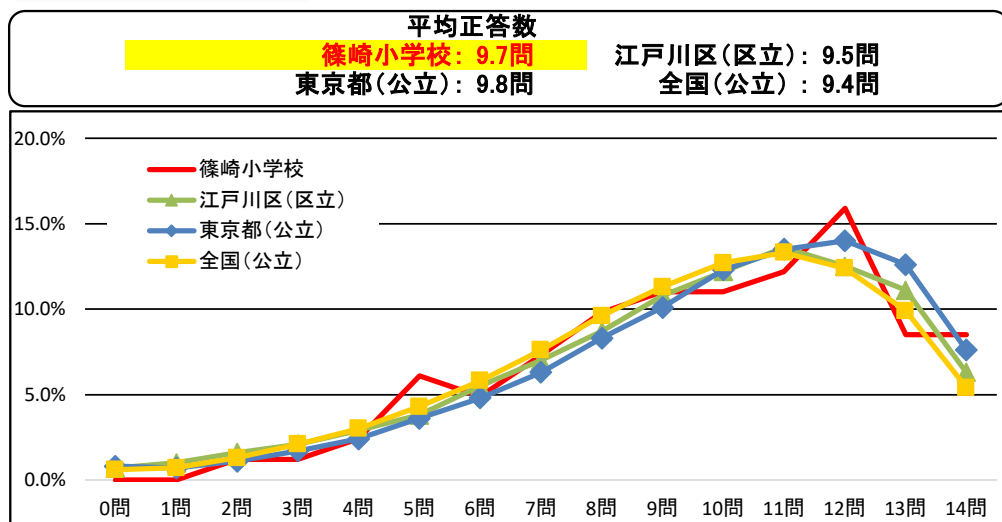


# 令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【国語】江戸川区立篠崎小学校

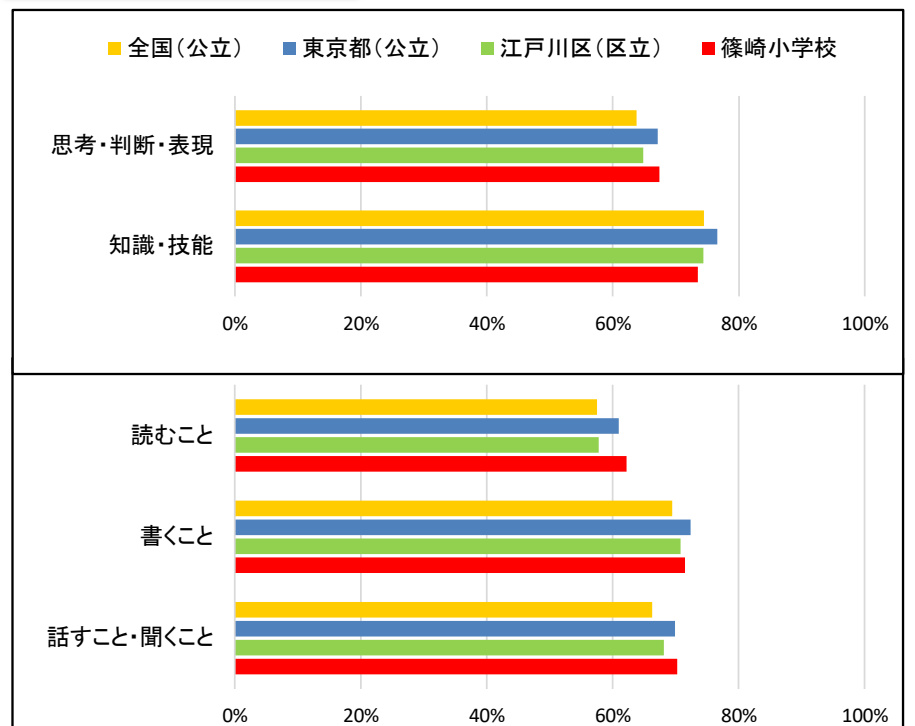
## 正 答 数 分 布



【平均正答率の差】

|            |       |
|------------|-------|
| 篠崎小学校      | 69%   |
| 江戸川区(区立)   | 68%   |
| 東京都(公立)    | 70%   |
| 全国(公立)     | 66.8% |
| 都との差(ポイント) | -1.0  |

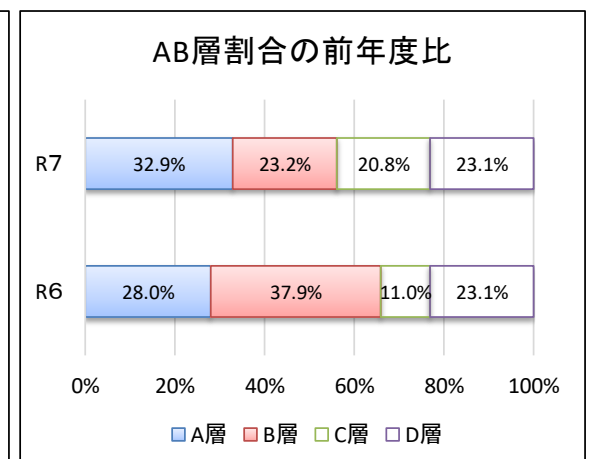
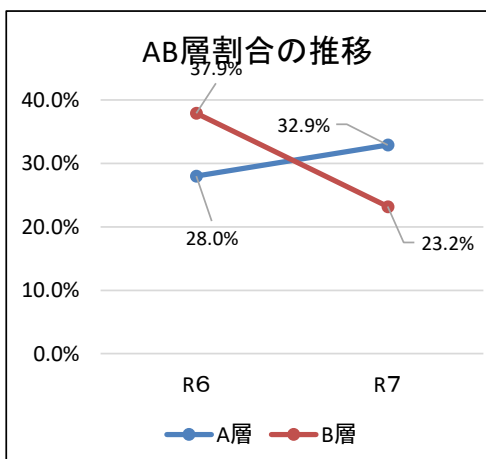
## 「領域別」の結果



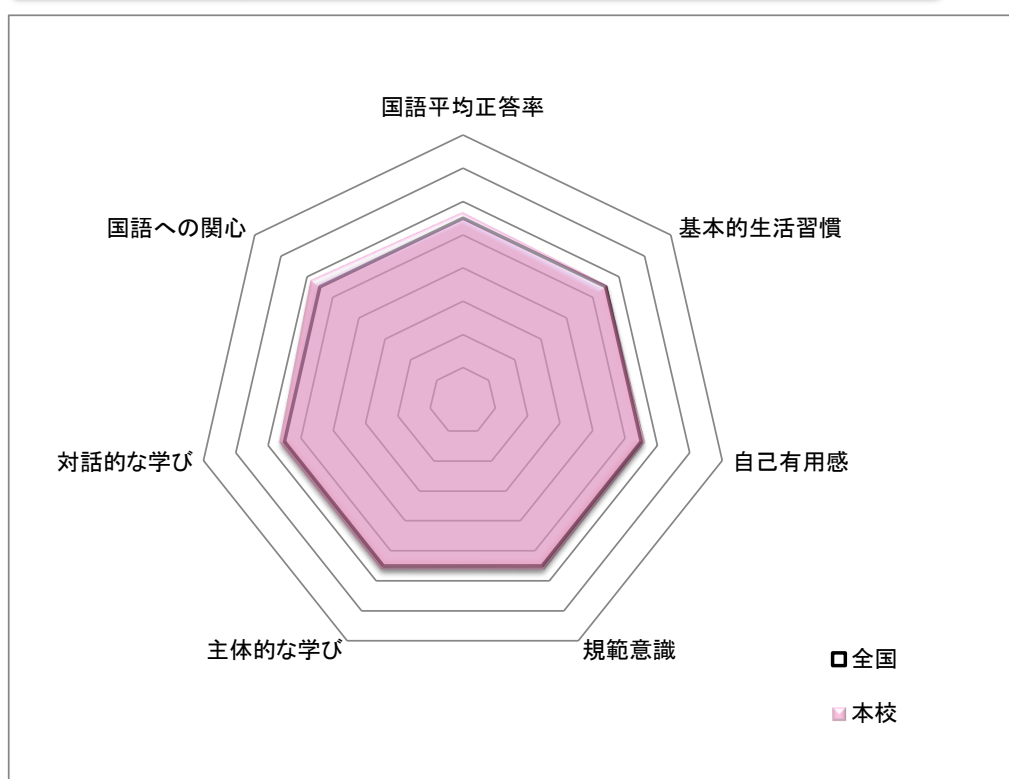
## 四 分 位 に お け る 割 合 ( 都 全 体 の 四 分 位 に よ る )

| 国 語      | 上 位 ← → 下 位   |               |             |             |
|----------|---------------|---------------|-------------|-------------|
|          | A 層<br>12～14問 | B 層<br>10～11問 | C 層<br>8～9問 | D 層<br>0～7問 |
| 篠崎小学校    | 32.9%         | 23.2%         | 20.8%       | 23.1%       |
| 江戸川区(区立) | 30.0%         | 25.8%         | 19.5%       | 24.7%       |
| 東京都(公立)  | 34.4%         | 25.8%         | 18.4%       | 21.4%       |
| 全国(公立)   | 27.7%         | 26.0%         | 20.9%       | 25.4%       |

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。



## 各 領 域 に お け る 、 全 国 平 均 正 答 率 及 び 、 全 国 の 肯 定 的 回 答 合 計 値 を 基 準 と し た 場 合 の 、 本 校 の 様 子 。



### 《チャートの特徴》

「国語への関心」の内容項目である「①国語の勉強が好きであること」は大幅に全国平均を上回っている。「②授業内容がよくわかる」については若干上回っているが、「③国語の授業で学習したことは将来、社会に出たときに役立つと思う」ということについての割合が低い。国語の学習の有用性や生活の中での役立ち感を味わえるような支援と情報提供をしていきたい。身近な体験・経験、課題意識から単元のゴールを設定する。そのゴールを児童の生活に結び付けるものとする。

### 《家庭・地域への働きかけ》

家庭での学習習慣を付けるために、個人面談や保護者会、学校だよりなどを活用して、家庭学習の大切さを促す。家庭での学習時間を決めることや、毎日継続することにより、学習内容が定着することを説明する。家庭だけに任せるのではなく、学校・児童・保護者の三者で支えていくようにする。国語で作成した成果物や学びを児童が保護者に伝え、保護者からも肯定的なフィードバックをもらうように連携する。

### 《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について  
A層32.9%、B層23.2%、AB層が56.1%である。  
令和6年度より、A層の割合が増加した。  
A層の割合は江戸川区平均・全国平均よりも高い。東京都平均には及ばなかったため、B層をA層に上げるための授業改善を行う。  
B層の児童は「説明を書くこと」や「調べたことを詳しくまとめること」に苦手意識があると考えられるので、日頃の学習で「書くこと」を習慣化していく。  
令和6年度より、B層が減り、C層が増えているため、C層をB層に上げるために「見方・考え方」の概念を問う授業を行い、反復学習の機会を設ける。

### 《学校の取組》

#### ・教員の指導力向上

授業改善を目標にし、「主体的・対話的で深い学び」を推進する。管理職が日常的に校内巡視及び授業観察をし、その都度良い授業実践を広めたり、個別に指導をしたりしている。また、UDLについての校内研修を取り入れ、実践を繰り返しながら、誰一人取り残すことのない教育を推進している。また、「江戸川区国語授業スタンダード」を基にした授業や筑波大附属小教員による授業、指導教諭の模範授業等、モデルとなる授業を参観し、自分の授業に活かすようにしている。

#### ・基礎学力の保障

週1回「よむYOMUワークシート」に取り組むことにより、読解力の向上を図っている。朝学習では、漢字や言語に関するドリルパークに取り組んでいる。物語文や説明的文章の単元では、自分たちでめあてや問いを立て、問題解決型の学習に取り組めるようになってきている。教師主導型ではなく、子供主体の学習に転換し始めている。ICTを活用し、他者参照をしながら協働的に学習できるスタイルも取り入れている。「放課後補習」を活用し、習熟を図っている。

#### ・学習習慣の確立

学習習慣とは「自ら学ぶリズムと姿勢を身に付けること」であること、具体的には①時間を決めて取り組むこと ②やるべきことを自分で判断して行うこと ③毎日続けることが大切であることを児童に伝えていく。学校でも、「学習を続けていくことで『わかる』ことや『できる』ことが増えていく」ということを、児童が実感できるような成功体験を積めるようにする。また、ICTを活用して、ドリル学習を積み重ねることで勘違いやケアレスミスがないようにしていく。「江戸っ子 study week!」で学習への意識付けを図る。

#### ・AB層の育成

A層の割合を増やすために、B層の児童のつまづきを明らかにして「できる」ようにする。また、B層児童には結果を振り返り「学習内容の理解不足」が「ケアレスミスや、勘違い」か分析させ、今後の学習への取り組み方を考えさせる。それにより、今後A層への向上を目指す。また、今回の調査ではC層が多かったため、B層へ移行できるように、「思考のパターン」や「考え方の型」などを理解させ、自己評価力を高め、課題をもって学習できるようにする。「書くこと」の力を伸ばすために、モデルからポイントを考え、言葉による見方・考え方の育成を図る。